

経営比較分析表（令和4年度決算）

栃木県 下野市

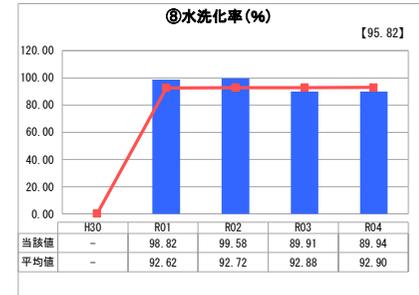
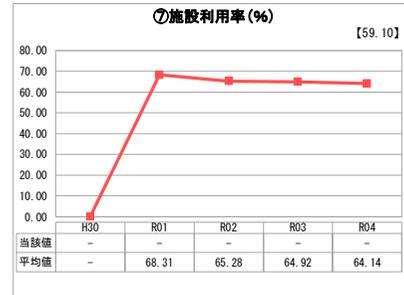
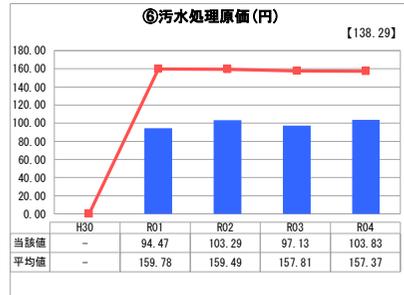
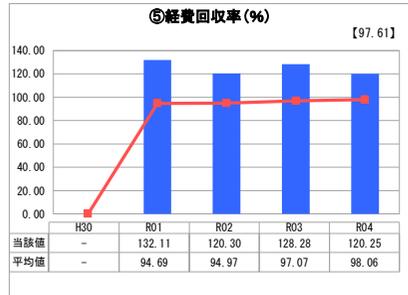
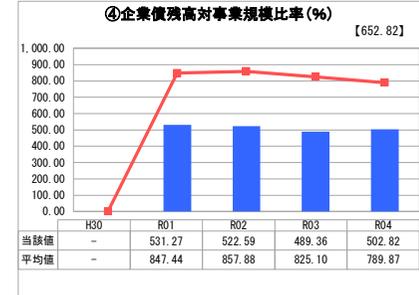
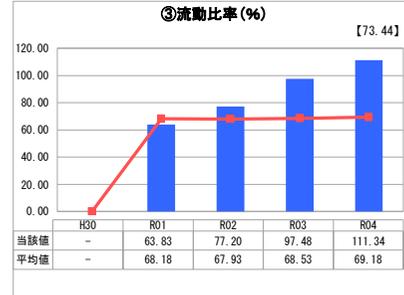
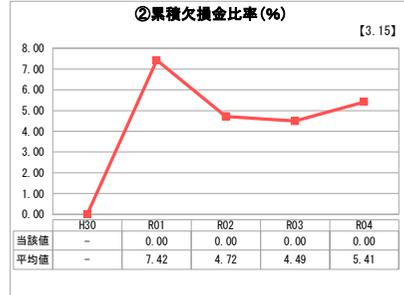
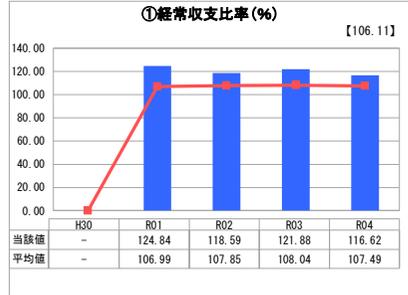
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	77.27	72.10	77.08	2,530

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
60,140	74.59	806.27
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
43,072	9.27	4,646.39

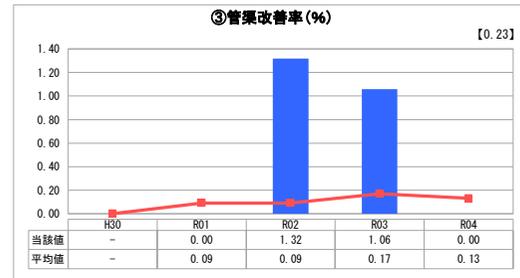
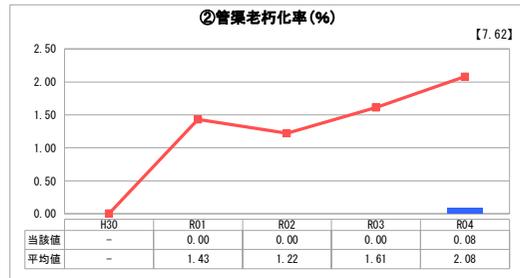
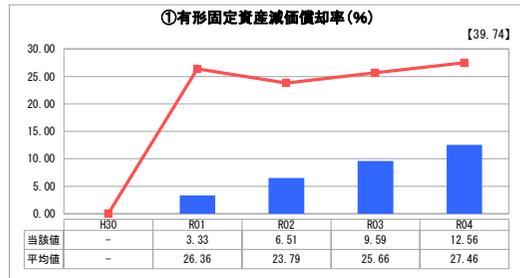
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 1) 経常収支比率(左表1-①)
100%以上であることから、収支は黒字である。また、類似団体平均値と比較しても高い水準である。しかし、未だに繰入金に依存した収入構造となっているため、更なる収入の確保と経費削減に努める必要がある。
- 2) 流動比率(左表1-③)
100%以上であることから、短期的な債務に対する支払いは確保されている。
- 3) 企業債残高対事業規模比率(左表1-④)
前年度より微増となり、類似団体平均値と比較して低い水準となっている。引き続き経営戦略に基づき企業債残高の減少に努める。
- 4) 経費回収率(左表1-⑤)
100%以上であることから、使用料収入により汚水処理費用を賄えている状態にある。また、類似団体平均値と比較しても高い水準である。
- 5) 汚水処理原価(左表1-⑥)
類似団体平均値と比較して大幅に下回っており、有収水量1m³あたりの費用を比較的安く抑えられている。
- 6) 水洗化率(左表1-⑧)
類似団体平均値と比較して若干下回っている。管渠整備は進んでいるが、改築に合わせ接続を予定している世帯が多く、更なる接続に向けた普及と啓発が必要である。

2. 老朽化の状況について

- 1) 管渠老朽化率(左表2-②)
類似団体平均値と比較して、耐用年数を超えた管渠の割合は低い。
今後、耐用年数に達し更新時期を迎える管渠が増加することが予想されるため、計画的かつ効率的な施設更新に努める必要がある。

全体総括

現状、経常収支比率及び経費回収率ともに類似団体より比較的高い水準となっており、使用料収入により汚水処理費用を賄えているが、総収益に占める繰入金の割合は依然として大きく、引き続き水洗化率の向上を図り、使用料収入等の確保や経費削減に努める必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。